

ART LEAP 2019

「いらっしゃいませようこそ」 出展作家：潘逸舟

個人と社会の間に存在する見えない関係性を見つめる
神戸における移民の歴史、外国人移住者／労働者——『移動する身体』をめぐる展覧会

神戸アートビレッジセンター [KAVC] (神戸市兵庫区、指定管理者：公益財団法人 神戸市民文化振興財団、館長：大谷燮) は、2020年2月22日(土)～3月15日(日)に展覧会、ART LEAP 2019「いらっしゃいませようこそ」を開催いたします。本展は、潘逸舟(はん・いしゅ)にとって最大規模の個展となり、全て新作によって構成されます。

潘は、個人と社会の間に存在する見えない関係性を見つめ、その中で生じる疑問や戸惑いを、自らの身体を用いたパフォーマンスで可視化し、これまで映像やインスタレーションなど様々な表現手法で作品を展開しています。

異なるルーツを持つ人々の暮らしが複雑に入りくみ、生活が多様化する神戸。約150年前、多くの日本人が神戸港から海を渡り、移民となりました。そして今、労働力を送り出す側だった日本は、労働力を受け入れる側に変化しています。潘は、本展にあたり『移動する身体』をテーマに挙げ、神戸における移民の歴史や外国人移住者／労働者の現状を探るためのリサーチ活動を各地で行うなど、2019年7月より制作準備を進めてきました。

展覧会タイトルの「いらっしゃいませようこそ」とは、文字通り「歓迎」を意味する言葉であり、優しく開かれた場所／展覧会でありたいという作家の意図が込められています。また、サービスの提供と享受の間に当たり前に存在する「接客用語」でもあり、消費社会における需要と供給の境界をつなぐ言葉とも言えるでしょう。

本展では、こうした「消費社会」と「労働力」を背景に、潘が労働者と共に働いた実体験と、神戸でのリサーチ活動から着想を得た新作を発表します。

ART LEAP 2019 「いらっしゃいませようこそ」

出展作家：潘逸舟

日 時：2020年2月22日(土) - 3月15日(日) 12:00-19:00 (※但し、火曜日休館)

会 場：神戸アートビレッジセンター (1F・KAVC ギャラリー、B1・KAVC シアター、スタジオ 3)

入場無料

主 催：公益財団法人神戸市民文化振興財団 神戸アートビレッジセンター

協 力：東京藝術大学大学院映像研究科、RAM Association、株式会社ベル、MAY 加工所、国際交流シェアハウスやどかり



会場・お問合せ：神戸アートビレッジセンター (指定管理者：公益財団法人 神戸市民文化振興財団) 担当 岡村・野澤
〒652-0811 神戸市兵庫区新開地 5-3-14 TEL：078-512-5500 FAX：078-512-5356 Mail：press@kavc.or.jp

※取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は上記までご連絡ください。

作家略歴

潘 逸舟 (はん いしゅ)



1987年上海生まれ、東京都在住。東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修了(2012)。社会と個の関係の中で生じる疑問や戸惑いを、自らの身体や身の回りの日用品を用いて、映像作品、インスタレーション、写真、絵画など様々なメディアを駆使しながらも、真摯に、時にユーモアを交えながら表現する。「アジア・アナーキー・アライアンス」(関渡美術館、台北、2014年)、「Whose game is it?」(ロイヤルカレッジオブアーツ、ロンドン、2015年)、「In the Wake – Japanese Photographers Respond to 3/11」(ボストン美術館、2015年/ジャパソサエティー、NY、2016年)、「Sights and Sounds: Highlights」(ユダヤ博物館、NY、2016年)、個展「The Drifting Thinker」(MoCA Pavilion、上海、2017年)、「Cross Domain」(金鶏湖美術館、蘇州、2018年)、「Yet not to be attained」(マサチューセッツ大学アマースト校、2018年)、「アートセンターをひらく第1期」(水戸芸術館現代美術センター、2019年)などの展覧会に参加。

▶公募プログラム「ART LEAP」について

神戸アートビレッジセンター [KAVC] では、作家と連携した展覧会づくりを重視し、枠にとらわれない新たな表現の可能性を追求する展覧会を企画してきました。2018年度からは、30代～40代の芸術家を対象に、自身の活動で積んだ経験を基に、新たな表現の創造と意欲的な挑戦の場となることを期待し、公募プログラム「ART LEAP」を実施しています。初開催となった「ART LEAP 2018」では、審査員に建畠哲氏(詩人、美術評論家)を迎えポールやエアリアルフープなどを使う空中パフォーマーのERIKA RELAXと、構造体を利用した空間づくりや身体と関わる物のあり方を思考する美術家の池田精堂によるパフォーマンスユニット「tuQmo(ツクモ)」を選出し、約10ヶ月間の制作期間を経て、新たな道具ができるまでの思考プロセスと、その道具がもたらすパフォーマンス空間で構成された意欲的な展覧会を開催しました。2回目の開催となる今回は、審査員に片岡真実氏(森美術館副館長兼チーフ・キュレーター※)を迎え、潘逸舟(はん いしゅ)を出展作家に選出しました。

※2020年1月より森美術館館長に就任予定。

▶関連イベント情報

オープニングトーク(予約不要)

日時：2月23日(日) 17:00-19:00
出演：片岡真実(森美術館館長/ART LEAP 2019 審査員)、潘逸舟
会場：1F・1room
料金：無料 ※イベント終了後、オープニングパーティーを行います。

ワークショップ「自分の靴と踊ろう」(要予約)

アフリカンダンスの軽快なステップに合わせてながら、いつか誰かと踊るために、まずは自分の靴と踊ってみましょう。

日時：3月1日(日) 14:00-16:00
講師：Alain Sinandja(ダンサー・振付家)、潘逸舟
会場：B1・KAVCシアター
料金：500円
定員：10名
持ち物：その日に履いてきた靴、動きやすい服装

クロージングイベント「いらっしゃいませようこそ」(予約不要)

靴を作る音とともに、さまざまな国の音楽が会場を彩ります。歌ってもよし、踊ってもよし、どなたさまでもいらっしゃいませようこそ!

日時：3月15日(日) 19:00-21:00(途中入退場可)
DJ：江南泰佐(鍵盤奏者/大所帯非楽器アンサンブル POLY!)
会場：B1・KAVCシアター
料金：無料 ※飲食代は別途必要

※イベント開催中は作品の一部がご覧いただけない可能性があります。

※都合により、プログラム内容が変更になる場合がございます。

会場・お問合せ：神戸アートビレッジセンター(指定管理者：公益財団法人神戸市民文化振興財団) 担当 岡村・野澤
〒652-0811 神戸市兵庫区新開地5-3-14 TEL：078-512-5500 FAX：078-512-5356 Mail：press@kavc.or.jp

※取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は上記までご連絡ください。